とうかい

2023 年 3 月 16 日　NO.639

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会　広報部
〒460-0018　名古屋市中区門前町1番23号
東海教区教務所内
TEL 052-321-0028　FAX 052-332-4097
e-mail　info@tokai-hongwanji.net

東海教区伊賀組　活動報告

伊賀組は大変小さな組です。それ故に組活動も十分とは言えず、実践運動についても他組に比べれば極めて小規模で行っています。現在は、僧侶研修会と同朋研修会を年次事業として開催しています。連研については 16 年という長い休眠状態を脱して第 11 期より再開して現在第 13 期に至っています。

これらの数少ない事業を継続してきましたが、令和２年３月からのコロナウイルス感染拡大によって全ての事業が中止となりました。本年度当初は、感染状況が落ち着きつつあったので、事業再開を目指してきましたが、夏季の第７波、冬季の第８波の影響によって、全ての事業が未実施となっています。特に、連研の第 14 期については、第７波が落ち着いてきた秋季に参加者を募集しましたが、開催直前の 12 月になって、参加予定の方々から不安の声が挙がり、中断を余儀なくされました。

現時点では、感染状況の落ち着きが見えてこないので、僧侶研修会、同朋研修会の開催については見合わせています。連研第 14 期については、参加予定の皆様の意向を伺いながら判断していくことになりそうです。

コロナウイルス感染拡大が収束し、多くの人達が一堂に会することが出来る時を心待ちにしています。

Contents

伊賀組活動報告　P1
こころばなし　P2
特集（慶讃法要）P3～P6
御伝鈔解説　P7
書棚/声　P8

研修旅行（コロナ下前）

『阿弥陀さまはいます』

佐々木　玲（員弁組欣浄寺）

僧侶の先生を教え子数人で囲んで食事をしている時、先生が話された言葉が心に残っています。

「浄土真宗というものは、結局は阿弥陀さまがいると思っているか、いないかに尽きるんだよ」

先生は、日頃の法話や講義では、本願とは、名号とは、信心とは、念仏とは、と、浄土真宗のみ教えをさまざまな言葉を用いて、やさしく、相手に伝わるように語ってくださいます。その先生が「いると思っているか、そうでないか」というとても単純化された表現をされたことがとても印象的で心に残ったのです。

「安心」

１歳６ヶ月になる息子が、最近になって後追いをするようになりました。集中しておもちゃで遊んでいたり、テレビを見ている時、「少しぐらいならいいか」と部屋から離れようとすると、大泣きをして後を追いかけてくるようになってきたのです。私は、少しの合間だけ側を離れる心づもりなのですが、息子からすると、長く遠くにいなくなってしまうという気持ちがあるのかもしれません。息子は、私がいればそれだけで楽しいかといえばそうではないようで、「テレビをつけて」や「おもちゃをだして」と、言葉ではまだ言えませんが、全身で表現してねだってきます。ただ、どれほど楽しいことが目の前にあっても、親がいる“安心”があって“楽しい”があるのかもしれません。

「いる」

息子が立って歩けるようになって、２人で銭湯に行けるようになりました。銭湯の浴場に入ると、慣れない足取りでよたよたと歩きます。浴槽に入る前に、体を洗います。息子を洗っている時は良いのですが、自分の体を洗う時に困ります。息子１人で浴場内を歩き回るのは危険なので、抑えていなければならないからです。けれど、手は体を洗うことで埋まってしまいます。そこで、洗面台とのあいだを足で囲んで、息子がでられないようにします。ただ、体を洗っている時はそれでいいのですが、髪を洗っている時は、どうしても目を閉じてしまいます。その合間、足で囲ってはあるけど、本当にここに息子はいるのだろうか、外に逃げ出してはいないだろうかと、不安になるのです。その時に、私は息子の肌に足をあてるようにします。体に直接触れた時、そこに息子が間違いなくいるということが分かるからです。

「名をもって物を接したまふ」

阿弥陀さまはおられます。どのようなおすがたでおられるか。それは阿弥陀さまの名「南無阿弥陀仏」のおすがたでおられます。「南無阿弥陀仏」は私の口で称えられます。「南無阿弥陀仏」は私と阿弥陀さまがつながる手段ではありません。「南無阿弥陀仏」は阿弥陀さまそのものです。私が「南無阿弥陀仏」と称えるそこで、直接阿弥陀さまとふれています。私が阿弥陀さまはいるのだろうか、いないのだろうかと迷う必要はもうありませんでした。

摂取不捨の仏さま、どれほどの罪を抱えていたとしても捨てることはないという仏さまにもうすでに抱かれていました。

３月 29 日からご本山では親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗慶讃法要がお勤めされます。『とうかい』でもそれに合わせて法要についてや本願寺の見どころ、関連する催しなどの特集を企画いたしました。団体参拝などの折にお役立てください。

愛唱歌

このたびの慶讃法要にあたって、「世のなか安穏なれ」と願われた親鸞聖人の教えをもとに、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現にむけた取り組みの一環として、世代を超えて親しまれ、皆が一緒に歌って元気になれる愛唱歌の制作が行われました。歌詞は 1262 点の公募作品の中から山口タオさんの「みんな花になれ」が最優秀賞に選ばれ、歌詞の公募審査委員長を務められた加藤登紀子さんが作曲を担当されました。

《みんな花になれ》　作詞：山口タオ　作曲：加藤登紀子

１．あなたが笑うと　花になる
見ている私も　花になる
いいことあるよ　笑ったら
誰でも花になれるんだ
空を見上げる花のように
笑顔いっぱい咲かそうよ
空を見上げる花のように
笑顔いっぱい咲かそうよ

２．あなたが泣いたら　雨になる
見ている私も　雨になる
いいんだいいんだ　泣いたって
雨がふるから　花が咲く
風によりそう花のように
やさしい笑顔が咲くんだよ
風によりそう花のように
やさしい笑顔が咲くんだよ
やさしい笑顔咲かそうよ

「みんな花になれ」という曲名のとおり、笑顔が花に喩えられ、華やかに明るく笑うことで、みんなで笑顔になろうという思いが伝わってくる歌詞です。

私の笑顔を見て、笑顔になってくれる人がいる。誰もがみんなの花になることができる。だからどんな空模様でも上を向く花のように顔を上げて笑顔になることの良さを知ろう。一番の歌詞は私が笑うことをとても励ましてくれます。

二番の歌詞は、人生には笑顔でいられないほどつらいときがあるけれど、そんなときはむりに笑わなくていい、泣きたいときは泣けばいいのだと語りかけてくれています。悲しい私を見てともに泣いてくれる人がいて、泣いている今があるから、また笑うことができる。やさしい笑顔が私を笑顔にしてくれて、私のやさしい笑顔が悲しい誰かの顔を笑顔にする。つらいときはみんなで〝やさしい〟笑顔を咲かせることの大切さを教えてくれています。

新制　御本典作法

この度の法要をお迎えするにあたって、私たちの依り所となる『教行信証』を中心として「新制　御本典作法」が制定されました。

凡そすべての本願寺声明は代々大原魚山声明をその範とし伝承して参りました。その伝統的な声明の節回しの一端を復活させる声明を意識し、また法要の前後に「御本典作法」の旋律と声明旋律を融合させるという新しい形を取り入れ、法要にご参拝頂く皆様に荘厳な雰囲気の中、伝統的声明を聴いて味わっていただける作法となっています。

（親鸞聖人御誕生八百五十年　立教開宗八百年慶讃法要「新制　御本典作法」制定にあたって［法式本部式務部］より抜粋）

本願寺の見どころ

龍谷大学 大宮学舎（重文）

江戸時代、西本願寺に設けられた「学寮」が始まり。
大宮学舎の「本館」は明治12年築。

唐門（国宝）

2021年9月に修復を終えたばかり。桃山時代の豪華な荘飾彫刻。檜皮葺き唐破風の四脚門。
別名「日暮らし門」見事さに日の暮れるのを忘れることから。
門に彫られた麒麟（きりん）はキリンビールのマークのモデルともいわれている。

飛雲閣（国宝）

豊臣秀吉公が建てた「聚楽第」の遺構とも伝えられ、金閣、銀閣とともに京都の三名閣と呼ばれている。三層 柿葺（こけらぶき）の楼閣。左右非対称から調和のとれた佇まいから名建築と評される。
滴翠園（てきすいえん）を舟で渡り入る「舟入口」、当時最上級のおもてなしだった蒸し風呂などがある。
二層には三十六歌仙の絵図が描かれる。

書院（国宝・重文）

・数多くの障壁画や欄間彫刻
・四季折々の花、草木、様々な動物が描かれる
・二条城の二の丸御殿と造りが似ている（書院造）
（白書院～折上格天井、床、付書院、違棚、帳台構 など）

北能舞台

国宝。現存する最古の能舞台。

南能舞台

虎の間　浪の間

虎溪の庭

ソテツが植わり、御影堂の屋根を借景に枯山水で虎溪を表す。

龍虎殿（りゅうこでん）

天邪鬼（あまのじゃく）～
・天水受けに8体
・少しずつ姿がちがう

御影堂（ごえいどう）（国宝）

寛永13(1636)年再建。
中央に親鸞聖人の木像
間口(正面左右)約62m
奥行き約48m　高さ約29m
畳734枚
世界最大級の木造建築

渡り廊下

歩くと「きゅ、きゅ、」と音がする

阿弥陀堂（あみだどう）（国宝）

宝暦10(1760)年再建。
本願寺の本堂、ご本尊 阿弥陀如来
間口45m、奥行き42m、高さ25m
入母屋造（いりもやづくりの屋根）
畳492枚

大銀杏（いちょう）

・樹令約400年
・枝ぶりが地中の根のよう。～逆さ銀杏
・火災から本願寺を守った逸話「水吹き銀杏」

手水舎（ちょうず）（重文）

目隠塀（重文）

鐘楼（しょうろう）

御影堂門（ごえいどうもん）（重文）

お茶所

・阿弥陀堂再建時、泉州のご門徒が10年に渡り大工さんにお茶の接待。
・当時のご門主は感動され、泉州門徒のためにお茶所を建てられる。（コロナ下おあずけ中）
・以来お茶の接待が続けられている。

阿弥陀堂門（あみだどうもん）（重文）

伝道本部

埋木（うめき）

・木造建築の修復に、すき間や割れ目を木片で埋める
・大工さんの遊びゴコロ

安穏殿（あんのんでん）

経蔵（きょうぞう）（重文）

天海僧正開版の「大蔵経（一切経）」が納められる。
天海版又は寛永版とも。

御成門（おなりもん）（重文）

太鼓楼（たいころう）（重文）

昔は太鼓で時を報らせていた。
新選組が本願寺を屯所にしていた時には、見張り用に使っていた。
当時の刃傷が残る。

バス乗降所

北境内地

聞法会館

ブックセンターはこちら。

築地塀（ついじべい）（重文）

・切妻造・本瓦葺の版築の塀
・5本の定規筋
・江戸中期～後期

春季特別展

『真宗と聖徳太子』
4/1（土）～5/28（日）

参拝時は是非 御影堂門、阿弥陀堂門より入ってお参りいたしましょう。

総門（重文）

1711年、親鸞聖人450回遠忌に合わせて建立。高麗門形式。

龍谷ミュージアム

・伊東忠太設計（築地本願寺も）
・明治28(1895)年
・現在は僧侶の教化育成道場として

伝道院（重文）

正面通

東山の方広寺・豊国神社（京都国立博物館北隣）から東西にのびる通り。方広寺大仏の正面の意味でつけられた。間に東本願寺がある。

油小路通

江戸時代はメインストリートだった

「お西さんを知ろう！」

・本願寺の見どころをお坊さんがご案内
・毎日4回
　10:00～
　11:30～
　13:45～
　15:30～
・予約不要
・法要期間中も
・30分くらい
・お茶所集合
・東海教区のお坊さんも

↑ QRコードを読み取ってダウンロードできます。

親鸞展・龍谷ミュージアム・南座

この度の法要にあわせて各所で公演・展示が催されていますので、紹介をいたします。

①南座４月特別公演『若き日の親鸞』

京都南座では、親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要を記念して、特別公演『若き日の親鸞』が上演されます。門徒特別料金での先行受付が行われております。詳しくは近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社 JTB、東武トップツアーズ株式会社、株式会社日本旅行、名鉄観光サービス株式会社お近くの各支店・窓口へお問い合わせください。

- 会　　場　京都南座（京都市東山区四条大橋東詰 TEL 075-561-1155）
- 会　　期　2023 年４月 10 日（月）～29 日（土・祝）
- 上演時間　午前の部 10 時 30 分／午後の部 14 時 30 分

②「親鸞聖人生誕 850 年特別展 親鸞－生涯と名宝」

京都国立博物館では、「親鸞聖人生誕 850 年特別展 親鸞－生涯と名宝」が開催されます。真宗教団連合は宗祖親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年・真宗教団連合結成 50 周年記念事業の一環として開催に特別協力をしています。本展覧会では、親鸞聖人の求道と伝道の生涯を、自筆の名号・著作・手紙をはじめ、彫像・影像・絵巻など浄土真宗各派の寺院が所蔵する法宝物を一堂に集め、紹介されています。観覧にあたって割引引換券『宗報』１月号より掲載されています（コピー可・１枚につき４名まで割引可）、宗務所、教務所等でも配布予定です。

- 会　　場　京都国立博物館 平成知新館（京都市東山区茶屋町 527 TEL075-525-2473）
- 会　　期　2023 年３月 25 日（土）～５月 21 日（日）＊休館日（月曜日）
- 開館時間　9：00～17：30（入館は 17：00 まで）

③龍谷ミュージアム　春季特別展「真宗と聖徳太子」

龍谷ミュージアムでは、親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要を記念して、親鸞聖人が「和国の教主」と崇められた聖徳太子をテーマとした展覧会が開催されます。この展覧会では、親鸞聖人の太子への篤い想いに触れるとともに、太子信仰の高揚に親鸞聖人と弟子たちが果たした役割を再確認します。そしてその後のご門徒たちが生み出してきた、太子信仰に関わる多彩な法宝物が紹介されます。

- 会　　場　龍谷ミュージアム３階、２階展示室
- 会　　期　2023 年４月１日（土）～５月 28 日（日）（54 日間）
  ＊休館日：４月 17 日（月）、５月１日（月）、15 日（月）、22 日（月）
- 開館時間　10：00～17：00（最終入館は 16：30）

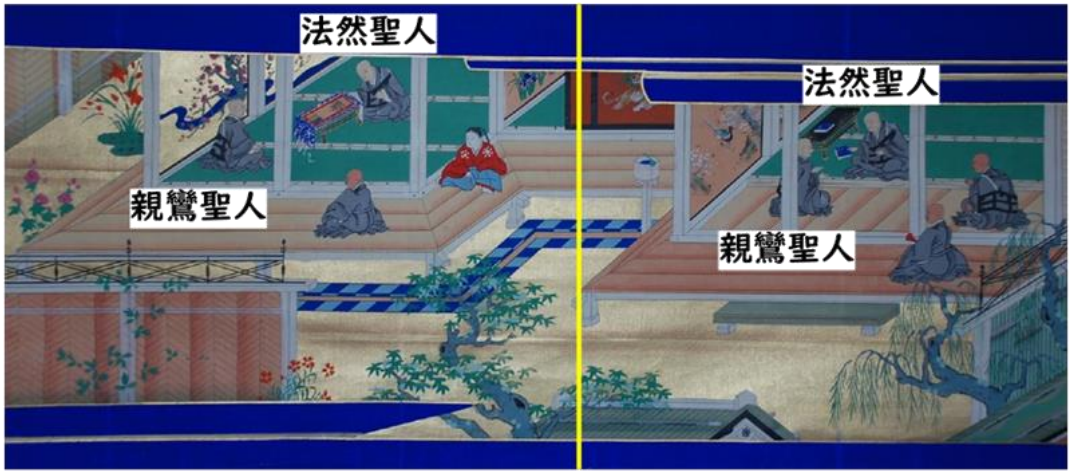
上記①～③につきましては本願寺 HP 内
「団体参拝引率者の手引き（PDF）」に詳しく掲載されています。

本願寺 HP

第二幅 第五段「選択付属」

親鸞聖人は 9 歳から 29 歳までの間、比叡山で仏道修行に励まれましたが、真実の救いに預かることを得ず、比叡山を下りられ京都の吉水におられた法然聖人の元をお訪ねになりました。当時、法然聖人は吉水の草庵でお念仏のみ教えについて多くの方々へ説いておられました。この、御絵伝第二幅は親鸞聖人が 29 歳から 35 歳までの間、法然聖人の元で浄土の教えの真髄を御聴聞され、親鸞聖人にとって法然聖人と過ごしたかけがえのない日々が描かれています。

親鸞聖人はご自身の事について基本的には記録を残しておられません。しかし、主著である『教行信証』には三つ記録されていることがあります。一つ目は『選択集』（法然聖人の主著）の相伝、二つ目は法然聖人の真影（絵像）の図画を認許されたこと、三つ目が承元の法難の顛末です。この「選択付属」の図では一つ目と二つ目の様子が描かれています。



第二幅 第六図（本願寺名古屋別院蔵）

ではまず右側の図です。この場面は 1205 年親鸞聖人が法然聖人から『選択集』の書写を許され、その書写を終えた後、その本の表紙の内側に法然聖人が内題「選択本願念仏集」と「南無阿弥陀仏」「往生之業　念仏為本」（浄土の教えの真髄を表わす文）と釋綽空（当時の親鸞聖人の法名）とを書かれた場面です。

法然聖人は『選択集』の公開を厳しく禁じ、その教えを正しく領解できるごく僅かな門弟のみに伝授されました。その中で入門から 4 年しか経っていない親鸞聖人が選ばれることは異例でありました。

次は左側の図です。親鸞聖人は同じ年の閏 7 月 29 日法然聖人の真影の図画を許され絵像をお借りし、写し終えられたので法然聖人の元に持参されました。すると法然聖人は真影に「南無阿弥陀仏」「若我成仏　十方衆生　称我名号　下至十声　若不生者　不取正覚　彼仏今現在成仏　当知本誓重願不虚　衆生称念必得往生」（本願には、＜わたしが仏になったとき、あらゆる世界の衆生がわたしの名号を称え、わずか十回ほどの念仏しかできないものまでもみな浄土に往生するであろう。もしそうでなければ、わたしは仏になるまい。＞と誓われている。その阿弥陀仏は今現に仏となっておられるから、重ねて誓われたその本願はむなしいものではなく、衆生が念仏すれば、必ず浄土に往生できると知るべきである。「顕浄土真実教行証文類　現代語版」 p 643-p644）と書かれました。当時の仏教界では師匠に肖像画の図画を許されそこに自賛を入れて頂くということは法義の真髄を相伝する証拠として重視されるものでした。ですから、『選択集』の書写・真影（絵像）の図画を認許されたことは親鸞聖人にとってはこの上ない喜びでありました。

大竹章和（桑名組聞光寺）

~お坊さんの書棚~

この度の慶讃法要、団体参拝のおともにいかがでしょうか。

『本願寺に咲く花～仏教文化と結びついた花卉図』　米澤信道著　本願寺出版社

壁や天井などに咲いて～描かれ、あらゆる季節の花が一年を通して楽しめ、当時の絵師の心意気が伝わってくることを教えてくれる１冊です。

『絵解きでわかる 世界遺産 西本願寺の魅力』　山田雅夫著　本願寺出版社

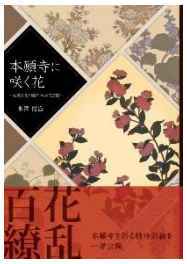
建築家ならではの、境内の建物の配置や建物の並び方、大きさなどの視点から描かれた本。建築方法、柱は何本あるかなどの、境内を歩く際にご門徒さんにお伝えしたくなる豆知識もたっぷりです。手描きの絵によって「必要最低限の線と色」で表され、スッキリとわかりやすいです。

『まんがでおまいり　西本願寺の発見』　岡橋徹栄（作）/一ノ瀬かおる（画）　本願寺出版社

はじめにお仏飯が紹介され、喚鐘やお供物などの、おつとめに欠かせない人やものが、ひとつにつき３ページで紹介され読みやすいです。また松風、埋め木、太鼓楼など、様々な視点を通して、「多くの人々が関わってきて今がある本願寺」の魅力をより知ることができます。

『るるぶ 親鸞ゆかりの地』　JTB パブリッシング　るるぶ編集部　JTB 出版

各派本山の紹介やマンガでたどる親鸞聖人のご生涯、ゆかりの地や周辺の観光スポット、お食事処や買い物など、「るるぶ」さんらしいムック本。youtube で「これはいい！」と紹介されるお坊さんも。この本を片手に、ご本山だけでなくあちこちのゆかりの地を訪ねてみるのもいいかもしれません。



~声（読者のページ）~

「本山散歩」

参拝教化部職員

１月末の雪で本山の境内は一面真っ白になりました。京都市内に雪が降ることはあっても真っ白になるまで積もるのは珍しいことです。今年の寒波は記録的なもので両堂の渡り廊下まで雪が降り積もり歩けなくなるほどでした。

さて御本山では３月 29 日から、親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要が始まります。この法要のために「新制御本典作法」という新しいお勤めがつくられました。馴染み深い正信偈の御文ですが、これまでにはない美しい旋律のお勤めですのでお参りの際には普段耳にする正信偈との違いを味わってください。

この「新制御本典作法」ですが、実は今年の御正忌報恩講でも２度勤められました。あまりに珍しい節のために「正信偈」の御文かと戸惑われた人もいらっしゃったのではないでしょうか？

また、法要を機縁に愛唱歌「みんな花になれ」が作られました。1200 以上の歌詞の応募があり、その中から選ばれたものに加藤登紀子さんが曲をつけられました。愛唱歌が完成の折には本山御影堂においてご本人による発表会もありましたが、京都に居ながら私は聞きそびれてしまいました。「みんな花になれ」は楽譜、CD も全国に広がりさまざまな場面で歌われていることでしょう。お念仏の花が咲くことをここ京都より念じております。